

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立広島国泰寺高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒730-0042
広島市中区国泰寺町一丁目2-49

E-mail kokutaiji-h@hiroshima-c.ed.jp

Website www.kokutaiji-h.hiroshima-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 498 名 女子 324 名 合計 832 名
幼児・児童・生徒の年齢 16 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、グローバル化の進展に対応し、高い志をもって世界の人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材を育てることを教育目標の1つとして掲げ、ESDの方法論を、「学習者基点の能動的で深い学び」であるととらえ、その実践を通して、知・徳・体の全般にわたって高いレベルでバランスがとれた生徒の育成を図ってきた。

本年度は、課題発見・解決学習と異文化間協働活動の推進を柱に、①課題研究成果発表会、②ハワイ修学旅行、③米国姉妹校 (BCA校) 訪問、④ユネスコ部の活動について報告する。

① 課題研究成果発表会 (2月)

総合的な学習の時間や科学部における研究成果について、ポスターセッションや口頭発表を行うことを通じて、批判的・論理的に考え表現する力や議論する力を養うとともに、課題発見・解決力の更なる向上を図った。また、英語での研究交流を通して国際的視野を広げ、国際性の育成を図った。

② ハワイ修学旅行（10月）

普通コースは、オアフ島を研修フィールドとして、ハワイの地理・自然、歴史・文化、産業・社会等を学ぶ多様なプログラムを体験した。本校の姉妹校であるモアナルア高校との交流を行い、モアナルア高校生との対話や、歌・ダンス・ゲーム等を通じた交歓を通して、日本の文化とハワイの文化の共通性と異質性に気付き、多面的・多角的な見方・考え方を身に付けることができた。

理数コースは、ハワイ島を主たる研修フィールドとし、マウナケア山でのサンセット見学や星空観察、世界遺産キラウエア火山での溶岩ハイキング、HPA校との学校交流など、自然観察・体験を重視した本校オリジナルの学習プログラムを体験した。自然の雄大さ・荘厳さ・美しさを実感するとともに、自然現象の不思議さや自然の摂理の巧妙さに驚嘆し、科学的探究への意欲を更に高めることができた。

③ 米国姉妹校（BCA校）訪問（3月予定）

アメリカのニュージャージー州にあり、本校の姉妹校であるBCA校（Bergan County Academies）を訪問し、国際交流や科学研究の分野における教育活動の成果の発表、授業参加、意見交換を行った。国際交流を通して、外国語による実践的コミュニケーション能力を高め、世界に向けて情報を発信することができる力を身に付けた。（訪問が3月のため、画像はH25のもの。）

④ ユネスコ部の活動（7月）

OECD広島創生イノベーションスクールへ参加した。国公立の枠を越えて集まった県内の高校生たちが、他国の高校生、県内企業・NPO・大学等と協働して、広島に向き合い、広島の魅力と課題を発見し、広島の世界に発信するプロジェクト学習を行った。「教育」「環境」「地球市民としての意識」を柱に参加者全員で広島創生イノベーションスクール共同宣言を作成した。これらを通じ、主体的・協働的・探究的な課題解決能力を身に付けることができた。



① の写真（キャプション）



② の写真（キャプション）



③ の写真（キャプション）



④ の写真（キャプション）

（H25 訪問時の写真）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 学校行事)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

統一した教材は使用していない。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間において内容を適切に定め、指導方法を工夫している。

指導内容

- ・学部・学科研究等を通して、様々な学問分野を知り、高校で学ぶことの意義を理解し、これからの生き方について考える。
- ・環境問題等の社会の様々な事象について、主体的・協働的に探究し、その成果を発表する。また、自らの考えを相手に伝える方法について学ぶ。
- ・集団での学びを通して、論理的思考力や表現力を高める。
- ・個人での研究活動を通して、知の総合化を図る。

指導方法の工夫改善

- ・1年生では体験活動の実施、2年生では1年間少人数指導を行い、きめ細かな指導を行う。
- ・グループ学習をできる限り多く取り入れることにより、主体的・協働的な学習を充実させる。
- ・グループでの課題研究においては、ホームルームの枠にとらわれないグループ編成を行う。
- ・課題研究においては、指導者の専門性を生かした指導を行うとともに、必要に応じて関連教科との連携を図る。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間において以下4点の指導体制を通じて取組を行っている。

- ・教育研究部が中心となり企画・立案を行うとともに、全教職員による指導体制を確立する。
- ・大学・学問研究については、高大連携を行う。
- ・学年会を中心として、指導者間の連携を深める。
- ・理数コースでの自然体験合宿に関連した探究活動では、博物館との連携を行う。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

総合的な学習の時間において次のような評価の方法を用いている。

- ・ ルーブリックやポートフォリオ，自己評価表を用いた個人評価
- ・ 活動の成果に対する相互評価
- ・ 話し合いや発表の状況，活動状況の観察
- ・ 論文，レポート，ポスター，作品などによる評価
- ・ 生徒の活動や作品にあらわれた資質・能力の伸長（質的な変化）に対するルーブリックを用いた評価

成果としては，

- ・ 他者と協働して主体的に取り組み，自らの思考を的確に表現できた。

課題としては，

- ・ 発表内容に深まりがないものが見られ，質的な課題があった。次年度は県立広島大学と連携をとり，内容面の指導を受けることとした。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

HPでの以下の行事の内容や成果を発信した。

- ・ ハワイ修学旅行
- ・ 課題研究ガイダンス
- ・ 課題研究成果発表会
- ・ エンパワーメントプログラム
- ・ サイエンス講座
- ・ 四川省青少年交流団来校
- ・ 英国語学研修旅行
- ・ 姉妹校訪問 等

各種大会・コンテストに応募し，研究成果を発表した。

- ・ 広島大学グローバルキャンパス
- ・ 物理チャレンジ
- ・ 生物オリンピック
- ・ 化学グランプリ
- ・ 広島県科学セミナー
- ・ 広島大学中・高シンポジウム
- ・ 全国総合文化祭 等

効果

- ・ 発信することで，指導助言を多くいただき，研究・活動の質を高めることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

ユネスコ部の活動

OECD広島創生イノベーションスクールへ参加した。国公立の枠を越えて集まった県内の高校生たちが、他国の高校生、県内企業・NPO・大学等と協働して、広島に向き合い、広島の魅力と課題を発見し、広島の力を世界に発信するプロジェクト学習を行った。「教育」「環境」「地球市民としての意識」を柱に参加者全員で広島創生イノベーションスクール共同宣言を作成した。これらを通じ、主体的・協働的・探究的な課題解決能力を身に付けることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

交流はしていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

- ・リフレクションシートにおいて、「疑問点を自ら解決している」との質問項目に肯定的な回答をした生徒の割合が91.8%となった。
- ・国際的な研究交流等の実施・参加回数が11回となった。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

グローバル化の進展に対応し、高い志をもって世界の人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材を育てることを教育目標の一つとして掲げ、ESDの方法論を「学習者基点の能動的で深い学び」ととらえ、その実践を通して、知・徳・体の全般にわたって高いレベルでバランスがとれた生徒の育成を図る。具体的には、課題発見・解決学習と異文化間協働活動の推進を柱に、①課題研究成果発表会、②ハワイ修学旅行、③米国姉妹校(モアナルア高校)訪問、④広島湾さとうみ創世コミュニティ[国土交通省]への参画(ユネスコ部)等に取り組む。